

第7回 松戸市2020年東京オリンピックパラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

1. 日 時 平成29年7月7日(金) 11時～
2. 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
3. 出席者 委員11名のうち10名出席
4. 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
5. 会議経過 (1)開会 11:00
(2)会長、副会長選出
傍聴確認(事務局より傍聴者なしとの報告)
資料確認(配布漏れなし)
議事録署名確認(名簿順につき伊藤委員に依頼→了承)
(3)報告 平成29年度の事業進捗状況について
(4)閉会 12:20

6. 議事概要

○長江会長

市の取り組みの進み具合につきまして、報告を受けましたので、委員の皆様方から、ご質問やご意見など自由な形でお話をさせていただきたいと思います。

今回初めて参加という立場でございますけれども、国際にお詳しい伊藤委員のほうから何かございましたら、よろしくをお願いします。

○伊藤委員

今お話しいただいた中で、若干質問も兼ねてお聞きします。行動計画の3番目の柱のほうに集中していますが、オランダの競輪の事前キャンプは、せっかく県のほうで大枠をつくって、それに市も協力するという形で決まりかけていたものが、松戸競輪場のトラックの長さが若干違うため本番会場でやりたいということになり非常に残念です。せっかくそういう施設が松戸市にありながら、

オランダが本番会場でやりたいとかいうことであればもうしようがないので、その辺はオランダにこだわらず、別の国の事前キャンプの可能性というものはないのでしょうか。せつかくいい施設があるので、それを利用した可能性をほかの国で探究していただけるとありがたいなというふうに思います。それが一つです。

それから、あともう一つ可能性があるものとしては、事前キャンプでカヌーとかボートも当初から話に出ていたと思いますが、現状を整備しないととてもできないような状況だと思います。今回の行動計画の中にも、オリンピックが終わってからも、七草マラソンやカヌー大会等、各種スポーツイベントを契機とした啓発を挙げられておられますし、これを機会に、江戸川を使った国際的なカヌーやボートの大会が実施できるような施設を整備して、事前キャンプを誘致していただけるとありがたいなというふうに思います。

それから、最後に、これは行動計画の3番目の柱の中に挙げられていますが、オーストラリアは、松戸市がホワイトホース市と姉妹都市を締結して既に46年になるんですけれども、もちろん姉妹都市という一地域に限られてはいますが、せつかくオーストラリアとそういうベースがありますので、それを活用して、今後二、三年にわたってオーストラリアに関連するような文化交流とかいろいろなものができると思います。そういったものをより権威づけるというか、そういったものをさらに広げられるように、できればオーストラリアとホストタウンを締結できるように申し入れて欲しいです。既に継続審議になっているようですけれども、さらに補強してホストタウン登録を実現していただければなというふうに思っております。

以上です。

○長江会長

その点に関してはいかがですか。

○事務局

3点ほどお話があったと思いますが、1点目のオランダに関しましては、委員がおっしゃられている部分があります。オランダ側が松戸競輪での事前キャンプが難しいとおっしゃられている理由につきましては、国際基準というものが1周250メートルで、松戸競輪場の規格が333メートルなので、オランダの自転車競技連盟と選手の中から、規格の違いが理由で事前キャンプは松戸競輪場では難しいというご意見がありました。直しようがない部分があるので、現実的には難しいのかなといったところですよ。ほかの国でどうかというところで、オーストラリア等に打診した経過がございますが、やはり、333メートルと250メートルの規格の違いが選手にとっては一番ネックになっており、なかなか難しいところがあります。ただ、検討は続けたいと思っております。

それから、他競技に関しましても、施設の状況とか、使い方というところの調整も必要になってきますが、それも含めまして、今後の事前キャンプ実施に向けた検討課題ということにいたしたいと思っています。

2点目のホストタウンに関しましては、昨年、ルーマニアとドミニカ共和国については認められ、オーストラリアは継続審査となりましたので、これについても引き続き検討したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○長江会長

ありがとうございます。

ちょっと視点を変えて広げていくということと、文化交流という視点でもご指摘をいただきましたので、できるだけ前向きにお願いしたいというふうに思います。

観光という視点から、須田委員のほうで何か気づかれたことやここら辺は、ということはどうですか。

○須田委員

厳しい話になってしまうかもしれませんが。

○長江会長

どんどん厳しくお願いします。

○須田委員

ここにある実績値としての観光ボランティアの部分が、今、小金地区を中心に進められているのかなと思っています。少なくともボランティアの育成に関しては、県を中心に、国際交流協会、観光協会と総合的に進めていかなければならないことだと認識しています。学生の一部だけ育成して、成果がよくわからないので本当にボランティアなのかと。もうちょっと大きな視点でボランティアの育成に対する考え方を持たないと、一部分だけでボランティア育成もしましたよという話にはならないのだろうと思います。松戸市としてボランティア体制をどうやって構築していくのか、基本的なものの立ち位置になって考えた上で、観光協会のパンフレットを多言語にしたりとか、松戸市を紹介するパンフレットについては、文化観光国際課がベトナム語、英語、中国語の3カ国語でつくったりはしています。そういう情報も含めて、委員のみなさまへ市全体の取り組みを羅列的に出していく必要があると思います。私は昨年度まで市役所にいましたので内容的なものはわかっていますけれども、委員のみなさまはそういうことを把握していないので、この部分だけを聞いて「えっ、これしかやっていないの？」という話になってしまうことから、行政として取り組んでいるものを全体として出していただければいいと思います。

それから、今回、29年度の議事ということで、進捗状況の報告的な問題はありましたけれども、今後の計画みたいなものが1回目の会議なので、もう少し

議論できればいいのかなと思います。その中で議題になるような、観光やボランティアとしての提案としては、国際交流協会のほうでも日本語教室等々を含めて考えられていることもあるので、その辺は一度現場ときちっとお話をさせていただいて、どういうスキームでいくのか方向性も含めて出させていただくほうがいいのかなと思います。観光とは違う視点ですが、意見として出させていただきました。

○長江会長

ありがとうございます。市のほうから何かございますか。

○事務局

小金のほうに関しましては、まだ始まったばかりでこれからという段階でございます。今、須田委員がおっしゃられたように、各団体の協力をいただきながらこれからエリア広げていきたいというふうに考えているところです。よろしく申し上げます。

○須田委員

このような会議の場で観光協会がいるし、国際交流がいるし、その中でこういうお願いをしたいんだとか、何をしたいのかということをもっと具体的に言っていて、オリンピック・パラリンピック推進担当がリーダーシップを出して意見をきちっと言ってくれたほうがいいのかなと思います。

○事務局

はい、ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。

英語のガイドをどういうふうにやるのかとか、実際のシミュレーションを含めた形で見える化していない部分と、市民の方への広がりや連携、つながりなど、協力できる団体とのつながりを具体的にプランニングへ生かすというようなことのご提案でした。よろしくお願ひいたします。

それでは、上場委員のほうから、市内の子どもたちも育成されている現役の選手としての立場で、何か気づかれたことがございましたらよろしくお願ひします。

○上場委員

今、子どもの育成のほうというよりは、私自身が競技をしているというところの目線から1点だけ申し上げます。4番目の柱に挙げていただいている環境整備というところをちょっと気にして見ていたのですが、この環境整備と競技環境の充実とか、そういったところをどう定義しているのでしょうか。10ページの8月16日にやるパラリンピアン講演会は、障害者スポーツの普及や環境整備についてというところでやっている内容だと思うんですけども、この講演

会が環境整備というところにどのようにつながっていくのか、具体的に定義され、イメージされた上で進んでいるものなのかなというのが一つ気になっています。

行動計画のところを見ていった中でも、どのようなアプローチでそれを実現していこうとしているのか私のほうでは見えにくかったので、そのあたりをお聞きしたいというふうに思いました。

以上です。

○事務局

4つ目の柱の部分で、現在取り組んでおところが、先ほど説明させていただいた部分と、松戸ゆかりの選手に対して応援・支援ということで応援金という金銭的な形で応援している部分がございます。ほかの部分については、先ほどのスポーツ科学の部分ということで、講演や市民に対する啓発に今取り組んでおるところでございます。

委員のご質問は競技環境や施設整備というところになると思いますが、それは既存の施設を基本的に利用する前提でオリンピックの事前キャンプ等を誘致したいといったところ基礎的なところでございます。それプラススポーツ的な計画のもとに整備する部分というのがございますので、それとの兼ね合いの中で整備が進んでいくというところになると思います。

○事務局

すみません、補足で競技環境の充実というところでありまして、例えば、今年度、スポーツ課の予算で運動公園の体育館の冷房化というのもやらなければいけないというのはもちろんわかっている中で、オリンピックに向けて重点的に先にやろうという市長の決断とかもあり、実は進んできている部分もあります。今年度、冷房化しようということになってきています。

それから、陸上競技場の改修も、陸上競技協会からいろいろとご要望いただいている中で全部やることはもちろん難しいですが、どうしても使うところに関しては優先的にどんどん予算を充てていこうというのは市長もわかっているところがございますので、その辺りを優先的にやることをこの目標の答えにさせてもらえればと思います。

○長江会長

市のさまざま部署との連携や計画、現状等がなかなか見えにくいというお話であったと思うので、それに関しては、また今後、推進会議の中に出していただき書類も含めて見直しをしていただいで、具体的な部分の進みぐあいかわければ一番いいのかもしれないというふうに思います。

○事務局

補足ですけれども、北松戸駅の競輪場側は治安がよくないとか、汚いとか、

実は結構いろいろ言われていた中で、オランダの事前キャンプが来るかは難しいところではあるんですけども、ドミニカ共和国やルーマニアの宿泊施設として競輪場の宿舎を利用してもらおうというのも踏まえて、北松戸の駅前や河川の整備もオリンピックの一環として進めているところがございます。このようなオリンピック関連予算についても見える形でこれからも紹介していきたいと考えております。

○長江会長

スポーツ関連で、岡本委員のほうから何かございますか。今、長年にわたって実現させなければいけないというような課題を、少しは前倒しにしつつも見直しをしていただいているようですが。

○岡本委員

5月に松戸市体育協会表彰式の日には橋本委員からご講演をいただきました。講演会后、参加した会員に聞いたところでは、非常に好評でした。本当によかったなと思っています。

最近、松戸市で小学生の非常に不幸な事件がありました。本当に残念です。他県の知り合いと会ったときに、何件も、拳銃発泡とか何か出ていることもあって、今、松戸は治安が悪いですねと。このような状況が事前キャンプを誘致している国に聞こえたら、「何だ、松戸ってよくないんじゃないの、こんなところでやる必要ないよ」という意見が出てきてもおかしくないなという状況なので、私、そういう心配をしています。その話は、現実的にはここで出ていないから、ほっとしたということもあるし、それから、今後に向けて治安がよくなることが一番だと思うんです。

市長や市職員もしっかりと認識を持って働きかけするなり、そういう意思を持って仕事をする必要があるですし、その辺を我々委員としても意思を持つということが必要だなと思いました。

体育協会としては、とにかくできる範囲の中でしっかり力を発揮していきたいと思っています。

以上です。

○事務局 委員おっしゃられるように、大変不幸な事件が松戸市内で起こったということで、内容的にもちょっと衝撃的な結果でしたことから対策など難しい面もありますが、当然対応していかなければいけないということはあると思います。オリンピック・パラリンピックを一つの契機として、市民の活力や元気につなげていきたいというふうに思います。

○長江会長 安全対策や防犯・警護などを含めた形で、しっかりと施策の中に盛り込む必要があるのではないかというようなお話でした。

スポーツ関係で、尾崎委員から前にも選手のためにいろいろなことで協力で

きるというような話を積極的な形でしていただいていると思いますが。

○尾崎委員

企業という私の立場からしますと、事業活動とは一歩離れてこのような委員の立場で活動できることをしようと考えています。その中で、先月、山形県村山市がブルガリア新体操の女子代表チームを、事前キャンプということで2週間ほど受け入れていました。これをもう4年も前から毎年繰り返しています。その2週間の間に演技会をしたり、ブルガリアの大使をお呼びしてパーティーをしたりしており、事前キャンプ地というよりも、行政の力とスポーツの力で交友関係を築いている。

また、宮城県白石市は、10月にベラルーシという国を迎え入れるために仙台大学と組んで同じようなことをなされていくようです。そういう動きが徐々に出てきている中、そこまでできるのは、恐らく行政の方々の力と競技団体の方々の力が合致してやっていくということで、大きなムーブメントにつながっていくというふうに感じております。

ですので、レガシーとしてここでやっていることがオリンピックの後にも残る活動ということを見ると、やはり行政の活動とこのような活動を同じベクトルでやっていくことが必要ではないかと思います。そういう視点で、我々ができることをご提案し、意見していきたいなと思っています。

○長江会長

広がりませひということですね。

○尾崎委員

村山市の取り組みは、行政が一生懸命スポンサーを国内で探すんです。ブルガリアはヨーグルトというイメージですから、早速、明治さんに行ってスポンサーをお願いし、恐らく30社ぐらいの地元の企業も含めて協賛を得て2週間キャンプを実施されているんです。体育館は、キャンプの2週間の間だけ、我々も協力して既存の体育館を国際認定の環境に整備しました。終われば、また一般体育館に戻します。そういうようなところまで取り組んでいます。

○長江会長 工夫をされているわけですか。

○尾崎委員 そうですね。ですので、そこは競技団体さんだけでも多分難しかったでしょうし、行政の方々が、やはりそれを一つの、今でいえば地方創生というんですか、そういう視点とあわせて活動されたことが実になったのではないのかなというふうにはちょっと感じました。

○伊藤委員

今の話はトップダウンでないと難しいと思います。あとは、もし明治がスポンサーになったのであれば、ブルガリアのいろいろな案件も明治にはいつも頼めますので、協力してやっているんですね。

○尾崎委員　そうですね。明治はゴールドスポンサーですので、やはりそういうところをターゲットに行政はスポンサー探しを相当有効にやっていたように思います。

○長江会長

もともと松戸も、琴欧州さんの佐渡ヶ嶽部屋にもブルガリアヨーグルトがちゃんと提供されている。つながりがないわけではない。

できるだけ、委員の方々からお話があるのは、つながり、広がり、それから動きをつけていくために、もっとターゲットを絞り戦略的というお話が出ていますけれども、西機委員のほうからは、スポーツという部分で、幅広い視点から何かありますか。

○西機委員

2020 年に向けてイベントをやっていくことはいいとは思いますが、先ほどのボランティアの話でもありましたが、2020、2021 年より先にこの取り組みがどうなっていくのかというところが、施設の面も含めていま一つこの計画の中でも見えてこないですね。その点でいうと、私はラグビーのワールドカップのレガシーのほうのコーディネートもしている中で、オリンピックもそうですけれども、ビヨンドというのがキーワードになっています。それというのは、ワールドカップの場合で言うと 2019 年を超えたときにこういったイベントにもう少し若者がかかわることや、先生が講演をされた場合、好評であればその後それをできるプログラムが用意されていないと、結局、イベントを打つだけで終わってしまって、注目を集めた後、それが何のために注目を集めているのかというその先のプログラムが用意されていないのかなと感じます。あるいは、何か用意されているほかの分野のプログラムにうまくつなげるようなイベントを打つということが少しないのかなと。

それから、もう 1 点は対象の国はどこをターゲットにするのかと。今はどうしてもリソースがあるので、競輪やボートみたいな話になるんだと思うんですけれども、もう少しその対象国を、オリンピックのキャンプ用地もそうですけれども、その先にそういう国とどうつながるのかということを考えてうえで、途上国のインバウンド、特にアジアの国とつながるのであれば、あまりオリンピックで上位国といったことにこだわる必要もないのかなと思っています。

流通経済大学のスポーツ施設が茨城県龍ヶ崎市にあるものですから共有ができないですが、実は今日まで、女子ラグビー 7 人制のタイ代表チームが 1 週間うちの大学で合宿していました。今月は、シンガポールや韓国も女子代表がやってきます。彼女たちは決してオリンピックに出場するレベルではないですが、まだまだマイナーな女子ラグビーなどでも、もし一日でも何かプログラムがあれば、選手が集まって何らかのプログラムをすることも可能だとは思っています。

パラリンピックも自転車競技があるようですし、国を挙げてキャンプを実施するのが難しい途上国の1人ぐらいしか選手が来ないような競技種目に対してあまりお金をかけずにできるようなことをするとか、地理的、空間的なアプローチが必要かなと思います。

最後、もう一つは、その分野です。取り組みに対して、もう少し仲間を増やすためにはスポーツ発信が強過ぎるので、松戸市が取り組んでいるたくさんの方の社会課題にスポーツで何ができるかという、スポーツプラスではなくて、プラススポーツという考え方をもう少し落とし込むべきかなと。そういう点では、ほかの計画を事前に示していただいて、フューチャーセンターで多様な活動をされている方にスポーツを扱ってもらおうという取り組みをもう少しされると、流通経済大学も様々な学部や学科の学生がボランティアにも関わっていくでしょう。

ですから、視点を変えて、スポーツを中からではなくて外から見た視点で事業を展開した方がもっともっとできるのではないのかなと思っています。

○須田委員

今までの経過の部分で、まず、流通経済大学とは、文化観光国際課との事業で、国際観光学科の学生たちにゼミを一講座を設けていまして、毎週月曜日に40名ぐらいを講義していただき、観光マップや多言語問題などというのを今一緒に研究させていただいているところです。ほかの大学も含めてそういうことを進めていく必要性はあるのかなということだと思います。

それから、ドミニカ共和国はまさにレガシーのことも含めて、梨の部分に取り組んでいます。松戸のブランドの梨が中南米で配布できるようなイメージの中で、ドミニカ共和国とのホストタウンの交流についてはつなげています。その中で、このアイシャ・シエド氏によるコンサートもあります。

それから、一方でルーマニアに関しては、武蔵野市が姉妹都市になっていますが、11月にルーマニア交響楽団が松戸市の森のホール21で公演することになっています。文化面も並行しては進んでいるんですが、やっぱりそのプロモーションですとか、委員全体への情報共有がないというところが一番の課題なので、その辺をつなげていくことで、もう少しいろいろな意見を各委員からもらえるのではないかなというふうには思います。

○尾崎委員

ドミニカは、確か9月に来日されるんですね。

○事務局

調整しているところです。

○尾崎委員

来ていただくだけでも、大きな枠組みの中の一つとしてポイントになるかも

しれませんし。

○事務局

そうですね。先ほどのドミニカ共和国についてのバイオリンコンサートにおきましては、ドミニカの大使が来られて、ドミニカ共和国の紹介をしながら市民の方と触れ合い、交流したいというところで、ドミニカの大使もいらっしゃるというお話です。

そういう面でも、そういう情報発信というか、皆様と共有しながら、この事業を進めていきたいと思えます。ご提言もありますので、そういう視点を頭に入れながら、これから進めさせていただこうと思っております。

○西機委員

もう1点言いそびれたんですけれども、SPORT FOR TOMORROW というスポーツ国際貢献事業で松戸市を活用してほしいというところが強いです。松戸市の学生なり若者が、海外の途上国にスポーツを通じて外に行くというプログラムもあっていいのかなと思っています。その結果、松戸市に来ていただくようなことというのが、たくさんあると思えますので。私もラグビー協会の立場で行っていたんですけれども、実は、流通経済大学の龍ヶ崎のキャンパスで行われているプログラムがスポーツ長官の感謝状を受賞したんですけれども、例えばJICAの青年会や協力隊と組んでやるとか、リソースが外に出ていって何か若者がやるプログラムというものをきっかけに関係性をつくっていく。そういう中で、何か新しいものをつくり出して外に出ていくということも必要なのかなというふうに思いました。

○長江会長

ありがとうございます。

橋口委員のほうから、先ほど講演をしていただいたという話が出ておりましたが。

○橋口委員

先ほど西機委員からもありましたが、私もこういう取り組みをしていて、各自治体に必ずあるのは、こういう形で講演をやってもそれを引き続き医科学支援の中でのサポートしていくことってないんです。あったとしてもすごく限られてくると思います。それは体育協会なり、市・県のほうで予算を取って、小中学生の、心理、体力、技術の面で3年間どういったプロジェクトをやろうとか、そういったことを打ち出していくとか、ということに対して予算をつけている自治体は少数なんです。私、他県でそういった事業に携わったことがあります。それは3年のプロジェクトで行いましたが、今回の場合も、花火を打ち上げた部分に対して、これをどうやってつなげていくかというところをぜひ検討していくということも必要だろうかと思います。

あと、今、私、パラリンピック関係の強化委員をやっていますので、2020年に向けて動き出しています。これは実情的かもしれませんが、実は、パラ協会のほうでも、ロンドンで引退しようとかロンドンで終わろうと思っていた選手が、医科学の発展によって競技寿命が延びているので、いい意味でも悪い意味でも2020年の東京大会まで行けちゃうんです。そうすると、2020年でベテランがやめてしまったときに、若手が2024年にどうすると。また一から作り直さなければいけない。その部分で、実は2024年、2028年というのがターゲットになっています。ですので、メディア等が注目しているのは2020年なんですが、2024年、2028年でどうやって今の選手たちが強くなってほしいかということを経営として打ち出さなければいけない。これも、やはり最後のところにある医科学のライフ支援、選手の支援となってくるその部分も踏まえて、長期的なビジョンをどう打ち出すかというのも、今打ち出さないと、もう遅いのかと思います。もうすぐ、2019年、2020年になってしまったときには、こういった事業をとにかく進んでやっていただければなというところがあります。

私は、日本大学の松戸歯学部にいますので、特段、歯科医師になるということで入ってきている学生たちを相手にしていますが、授業等で話をすると、ボランティアに興味がある学生は、120名のうち5、6人はいます。全くスポーツに興味なかったけれども何かやってみたいと思ったときに、「じゃ、先生、どこに行けばいいですか」と聞かれても、実はないんです。私自身が松戸でこういうことをやっていますよという話をすると、もし何かあったら言ってくださいとは言ってくれるんですけども、もしそのときに私のところに来ないで、自分たちで調べようとする学生は、どこに行ったらいいんだろうと。ただの5%ですけども、そういう学生がいっぱいいると思うんです。何か動き出したいなというときに、その発信源はどこなんだろうというところを早急にやらないともう間に合わないと思います。ロンドンオリンピックのときに、8万人規模は最低必要だという形でボランティア育成をやっていましたけれども、松戸市で何か事業をいろいろやるときに、そこまでの規模は要らなくても、その事前の準備というのがどれだけできたかというのが、遺産なのかなという形で思います。そういったことは、先ほど大学の連携の中でという形で検討しなければいけないところもあると思うんですが、この会議の中でも提示させていただいているいろいろなお話が聞ければなというふうに思います。

あとは、オランダの自転車競技誘致の話がありましたが、実は、日本の競輪場はいっぱいあるんですけども、250メートルバンクというのは日本に1カ所伊豆にしかないんです。パラリンピックの自転車はカテゴリーにもよるんですが、国体を勝ち抜いた選手でも金メダルを取れないレベルなので、強化を徹底的にやっているところは、もう恐らく伊豆をターゲットに来ると思います。た

だ、伊豆が選手村になるので、期間中にこのバンクを使うことはないでしょうが、発展途上の国に関しては、恐らくベロドロームに入れないという国が多くあると思います。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは薄葉委員、商工会議所の立場で何かお気づきの点がございましたら、よろしく申し上げます。

○薄葉委員

ホストタウン、そして事前キャンプにおいては、言葉や食事の問題があると思いますからそういった視点で考えていました。先ほど北松戸の宿泊施設の話がありましたけれども、例えば、北松戸周辺の商店街に、こうなる可能性があるから少し品揃えを考えたほうがいい、ということをお我々が伝えなければならぬことも考えられる。しかし市内、他の地域の商店街がありますし、いろいろと会議所としても雰囲気はわからないところもあります。それから、子どもたちに「夢教室」をやっていますよね、子どもたちの将来のことですから、すばらしい事業をやっていますよね。あと国際化ですよ。松戸の町の人口がただただ増え、何かが変わってくるかなと、そういう感じです。

商工会議所は大きく分けて、企業の繁栄を願うことと、まちづくり活動で貢献です。経済的な観点からのまちづくりと、市としての財政的裏づけをどこで持つかということですから、それなしには幾らいい話をしたってできないわけです。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、池邊副会長から申し上げます。

○池邊副会長

先ほど会長から、やさシティおもてなシティといったときに、まずは駅がバリアフリーではないし、ユニバーサルでもない。戸定邸に行くまでの道も、恐ろしくユニバーサルではない。あと、市役所は、女性トイレに洋式トイレがすごく少ない。そういうようなところが、例えば松戸市に海外から視察団の方がいらして、多分市役所にもいらっしゃると思うんですけども、まず市役所のところがユニバーサルではないし、花壇も中庭もおもてなしという雰囲気がしない。やはり、そういうシティセールスというものに対して、やさシティを見える化するために何で示すのか。英語でできることが大事かもしれないですけども、まず、町に来たときに汚い、ユニバーサルではない、トイレも洋式がほとんどないということだと、もうそこで「どうなってるの？」っていう感情を抱かせてしまう感じなんですよ。

私、まちづくりのいろいろな地域再生とかをやっていて、オリンピックに向けて松戸を変えたいという市長のお気持ちも感じますので、そのためには、まず市民が松戸はいいところだねって誇らしく思うことが大事です。文化もいっぱいあるのに、何か松戸はオリンピックに向けて変わったよねという感じがないんですよ。駅前にしても、市役所にしても。何かそこが変わると、あそこも変わったんだから、自分たちも何かしなきゃいけないと。NPOの力も、まだ松戸市はすごく弱いですから、いろいろなNPOがもっともっと出てくるためにも、英語ボランティアの教室も大事だけれども、こういうものを通じて、ボランティアの団体が地域活性の一端とならないと、レガシーも含めてちょっと厳しいのかなという感じがしました。

あと、見える化というところで、先ほど上場委員がいらっしゃったのでお話ししますと、大田区が白い砂を入れてビーチバレー場を1個つくったんですよ。それだけで大田区民は、「えっ、うちの区にビーチバレー場ができたんだ」と新鮮に思うし、ビーチバレーという競技に興味湧くし、「あっ、オリンピック近いんだな」という感じが醸し出されています。

あと、松戸市は幼児用の公園もないんですけれども、大田区は、今、公園のリニューアルで、3歳児以下の子ども用のスペースをつくり、ゆるキャラの“はねびよん”の遊具を設置しています。公園リニューアルを通じて子どもたちや若いお母さんたちに向けたアピールをえています。

あと、稲毛海浜公園は、結婚式場ができたのをご存じだと思いますけれども、あれがうまくいっているのにあわせて、今、全面的に民間に委託しようということで、この前いろいろな知恵が出ました。変な話、海浜公園を白砂にみたいな話まで出てしまったんですが、そういう意味で何かもっといろいろなものが町の中で使えるもの、変えられるもの、いろいろあると思うんですけれども、もうそろそろそういうハード整備が間に合わなくなっているんです。だから、そういう意味では、オリンピックに向けて町も変わってきたねとか、花壇だとか中庭なんかは、造園的にいうと何万のレベルでも変えられる話なんです。そういう何か小さなところで歓迎の意味というのをやらないと、さっきお話があった外環ができて、今度、市場の跡地にショッピングセンターができて、そうしたらどうですか。駅前がバリアフリーじゃないまま駅前の店はみんな置いていかれますよね。伊勢丹もいなくなってしまうかもしれませんよね、そんなショッピングセンターができたなら、それでいいのかと。何かそのあたり喜んでいる場合ではないよという感じです。私は、柏の葉ができてから、柏市の旧の柏のところがすごく落ち込んでいるというので、いろいろなアドバイスをしてほしいと依頼を受けて柏市でアドバイスしたりしているんですけれども、その場合には、柏市のライフスタイルを好んで来る人たちと、旧柏市から住んで

いた人たちは違うと感ずます。その辺の兼ね合いで、松戸市がこれからの松戸市へどういふ人たちに来てもらいたいのか、そのためにどういふ町に変えたいのかという見え方ですよね。それによつて、さっきのお話ではないですけども、女子新体操チームとかが来ればそれをきっかけに子どもたちの新体操のクラブができるかもしれません。ですから、トータル的にシティセールスなど投資しないと戻つてはこないのて、何にどう投資するかというのが重要だと思ひます。ただ、国際化といつたときに英語だけを考へているけれども、まずはトイレというのがすごく大事だったりもしますね。今、ご存じのようにインバウンドつて言つたつて松戸市に来ないですよね。だつて、地球の歩き方とかいろいろなところて、松戸市は下りにエスカレーターもない、エレベーターもないところだから、大きな荷物を持つてはおりられないということがきちつとロコミで出してしまうわけです。だから、JRとの問題だとか駅舎のことだとか、いろいろな社会事情があるのはわかるんですけども、その辺を変えていかないと、本当に松戸が市民にとって優しい町にもならないし、優しい気持ちでみんなをおもてなしするといふ気持ちにもならないのて、市民が自らそういうふうな気持ちになるようなまちづくりを、市のほうとしても働きかけていただければなと思ひます。

○長江会長

ありがとうございます。

進捗状況をただ聞くだけではなくて、委員全員の方々にご意見をいただくといふことは本当にありがたいことだといふふうに思ひます。

基本としては、長期計画の中での戦略、それからオリンピック後を見据えた形の部分や松戸市をどう変えたいのかといふ意思、若い人もそうかもしれないんですけども、すごく元気な50代、60代、70代の人たちがどんどんボランティアに取り組んでいけるような明るい町とか、あるいは、スポーツの健康に特化する形で元気で長生きするようない取り組みに関するご意見をいただきました。それから、少子化対策は、市が今一生懸命保育に関して取り組んでいらつしゃいますが、先ほど池邊副会長のほうからあつたような、3歳まで、あるいは学童とかがいろいろな部分でつながつていく視点は幾らでもあると思ひます。次回、会議が11月ごろを予定しているようなので、それまでの間に委員の方々にもいろいろとメール等で意見を具申していただきたいと思ひます。それから、市のほうでいいことをやつていても見える化してないのて、委員には、まず何が動いているのかといふことに関して情報の共有をしていただき、事情をつぶさに見ていただいた形で11月の会議を開けたら一番いいのではないかなと思ひます。

今日も随分積極的なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

次回の11月の会議は、また、予定が決まり次第お知らせいたします。
本日はありがとうございました。